

2012年4月5日

## 堺工場でのリチウムイオン二次電池用セパレーター設備増強について

宇部興産株式会社

宇部興産株式会社（社長：竹下道夫）は、車載用リチウムイオン二次電池向けなどでの需要増大に対応するため、堺工場（大阪府堺市）で新たにセパレーター製造設備を増強することに着手した。

宇部興産は、現在、セパレーターを宇部ケミカル工場（山口県宇部市）のみで生産しているが、堺工場でも2013年度初めより生産開始し、段階的に能力増強を実施する計画で、2014年度末には2工場合わせた生産能力を2億㎡に拡大する。

リチウムイオン二次電池は、これまで携帯電話やパソコン用を主な用途として需要が安定的に拡大しているが、今後、ハイブリッド自動車や電気自動車などの車載用途をはじめとして、蓄電用途や産業用途などへの応用も期待され、大幅な需要の増加が予想されている。

宇部興産のセパレーターは乾式製法を特徴として、既に車載用にも多くの採用実績を有している。今回、堺工場に第2の製造拠点を設けることで、需要の増大に対応するとともに、リスク分散を図る。また、昨年2月に日立マクセル株式会社と合併で設立した宇部マクセル株式会社（社長：永田啓一）の塗布型セパレーター用基材も堺工場より供給する予定。

宇部興産は、これらの国内2拠点を最大限に活用し、今後の需要増大に合わせて供給体制を整えていく。

以上